

**平成29年度第2回宮城県地域支え合い・生活支援推進連絡会議 情報交換会
概要**

区分・会場	県南部 宮城県大河原合同庁舎 別館第2会議室
開催日時	平成29年10月26日(木) 10:00~12:00, 13:30~15:30
出席市町村 (出席者数)	白石市(4), 名取市(3), 角田市(4), 岩沼市(11), 蔵王町(3), 七ヶ宿町(5), 大河原町(7), 村田町(3), 柴田町(8), 丸森町(3), 亶理町(3), 山元町(4) 合計 57名
アドバイザー (運営委員)	東北こども福祉専門学院 副学院長 大坂 純 氏 東北福祉大学 教授 高橋 誠一 氏 仙台白百合女子大学 准教授 志水 田鶴子 氏 さわやか福祉財団 さわやかインストラクター 渡邊 典子 氏 宮城県社会福祉協議会 震災復興・地域福祉部 次長 西塚 国彦 氏
主な意見・内容	<p>テーマ：協議体の役割，運営，活動状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 第1層協議体では、「会議体」になってしまい、ワイワイ・ガヤガヤにならない。第2層・3層での話し合いの方が活発。 ○ 男性の構成メンバーが多くなかなかうまくいかない。メンバーをもっと流動的にできるようにする等の工夫が必要。 ○ 小・中学校区に拘らず、第3層の小さい単位で進めてもいいのではないか。 ○ 小さい単位の協議体で情報共有や課題を抽出し、第1層協議体へつなげていけば良いことを確認した。 ○ 協議体と称して参集し活動報告等になっている。会議体にならないようにしたい。 ○ 協議体の運営について、行政か委託先(社協)どちらが良いか? →地域福祉は社協の仕事なので社協が持つべき。行政は担当者が数年単位で異動になるため継続が難しいところがある。いずれも協議体の運営に生活支援 Co が一緒に当たっていくのが望ましい。 ○ 協議体の運営について、メンバーは固定せず謝礼はなし。委託している場合でも行政の後ろ盾は必要。行政で役割を持ち委託する。行政と委託先との連携が重要。 ○ 人口約1,500人の七ヶ宿町では、元々支え合いができており、一か所に情報が集まる仕組みができています。中学校の先生が作った「妄想会議」というのがあり、役職は関係なく教育と地域のこと等色々なことを話し合っただけで自由な意見を出している。これを協議体として活かせるのではないか。 ○ 亶理町では、協議体のメンバーに地元の高校生2名が参加しており、新たな発見がある。 ○ 岩沼市では、地区毎の情報をまとめ、住民へ周知するためマップを作成する予定。同意を得てサイトに掲載予定。 <p>テーマ：生活支援 Co の役割，運営，活動状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地域の宝物を探している段階。サロン活動や集まりの場等の見える化を進めている。まずは地域へ出向いていくことが大事。 ○ 生活支援 Co の役割として、まちづくり・生涯学習課と連携し、地域づくりへつなげるようにしている。 ○ 生活支援 Co を孤立化させないように、包括職員(行政)と一緒に動いたり、包括の庭を開放し体操・情報共有の場としている。その他、活動日誌の供覧、複数名の Co 同士の情報共有等を行っている。

	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生活支援 Co は一人では絶対できない。チームを組み、担当地区を決めて地域を回っている。 ○ 行政が成果・結果を急いで求めると生活支援 Co の孤立化につながるのではないかと。組織内や関係者全体が地域づくりについて理解する必要がある。孤立化しないためには情報共有・共通認識が必要。アドバイザー派遣も活用する。 ○ 生活支援 Co は地域に出向き、良く受け入れられている。 ○ 包括支援センターの業務と兼務の生活支援 Co は、個別支援と地域づくりの視点の切り替えが難しい。 ○ 住民から選出された生活支援 Co は自宅から直行でお茶飲みの集まりの場へ行っている。事務局へ結果報告し月 1 回の集まりで情報共有している。専任のためフットワークが軽い。お茶のみの誘いがあると喜んで行く。 <p>テーマ：関係機関、団体との連携、情報共有について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 情報交換会により、行政と（委託先の）社協との本音が見えた。 ○ 協議体・生活支援 Co の運営について、うまくいっている事例もあるが、行政が思うところで関係機関等との意思疎通がうまくできていない部分もある。 ○ 行政側はどうしても結果を求めたがる。行政側のビジョンがないにも関わらず、報告書（冊子）を求めたがる。 ○ 子どもとのつながりがほしい。防災訓練等を通し、学校と地域の協力が必要。 <p>テーマ：組織内部の連携、体制づくりについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 始めたばかりの事業で、計画通り進んでおらず、目標が見い出せない。 ○ 組織内での理解不足があり、この事業についてどのように進めて行けば良いかが見えない。 ○ この事業は地域づくり・まちづくり。交通や農業、障害福祉等色々な分野につながる為、より幅広く連携し進めなければならない。
<p>アドバイザーよりコメント</p>	<p><大坂委員長></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 生活支援 Co の孤立化防止や活動をする上での重要なポイントは、一つは、これまで作ってきたもの、まちづくりを学んでもらうこと。そのような場に出してもらい、教わったことを聞くこと。二つ目は、宝物を見つけた後は、地域で活動している方々と情報交換会をし、活動の活発化や横のつながりを広め深めること。協議体と連動して行うことにより、協議体も活発になる。ワイワイ・ガヤガヤの雰囲気作りは、生活支援 Co の仕事でありとても重要である。入口は何でもいいので、本日の情報交換会の中からヒントを得てほしい。 <p><高橋副委員長></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本音を言い合った場になり、いい雰囲気を作れたのではないかと。 ○ 抱えている課題は多くあるが、それ以上に色々な工夫をされていると感じた。 ○ 各市町の状況に違いがあり、それぞれ課題があり良いところがある。良いところから見ていくといい。課題から見てしまうとなかなか進まない。地域の人は課題を言いたくなるが、それでも暮らしている。どう暮らしているのか理解した上で、地元では難しいことも分かってくるので、時間が掛かり、すぐには手応えが得られないことがある。 ○ まずは取組みをして、自分達のやり方・スピードでやってもらおうと良い。うまくいっていないと感じているところもあるが、進めていくプロセスであり、それで終わりではなくどうすれば良いかという話がされていたのは凄いなと思った。そ

	<p>のようなことをお互い共有できる場になったのは良かった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 介護も介護予防ももっと広い生活の問題やお金の問題，まちづくり等，視野を広げると協力できるという広がりが見えて来たのが良かった。 <p><渡邊委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 第1層，第2層の生活支援 Co や協議体の他，第3層と決めていなくても第3層のようなものが見えてきたり，各層のつながりや事務局との情報共有等具体的な方法について話がされ、参考になったようだ。 ○ 今は地域の宝物探しを重点に行っているが，徐々に地域の課題が見えて来て，身近な地域で話し合ったことが解決できない場合は上の層の協議体へ上げていく。地域の声が協議体へ上がっていくと，具体的になりワイワイ・ガヤガヤになる。 <p><西塚委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 生活支援 Co が孤立化している原因は，この事業を進めていくことを組織内で共有ができていないことと，情報交換の場が少ないこと。是非，近隣市町の生活支援 Co の情報交換会を行い，波及してほしい。
--	--

区分・会場	県中央 宮城県仙台合同庁舎 1001・1002会議室
開催日時	平成29年10月27日(木) 10:00~12:00, 13:30~15:30
出席市町村 (出席者数)	仙台市(46), 塩竈市(3), 名取市(1), 多賀城市(8), 富谷市(3), 松島町(4) 七ヶ浜町(2), 利府町(4), 大和町(2), 大郷町(4), 大衡村(3) 合計 80名
アドバイザー (運営委員)	東北子ども福祉専門学院 副学院長 大坂 純 氏 東北福祉大学 教授 高橋 誠一 氏 仙台市地域包括支援センター連絡協議会 会長 折腹 実己子 氏 仙台市社会福祉協議会 事務局次長 高橋 健一 氏 七ヶ浜町社会福祉協議会 福祉活動専門員 小野 哲 氏
主な意見・確認 したこと等	<p>テーマ：協議体の役割，運営，活動状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 第2層協議体メンバーは，生活支援 Co が話しやすい方を選定している。人選には柔軟性が必要。 ○ 既に地域の集まりがあり，新たに協議体を作る必要があるのか。 ○ 地域ケア会議等既存のものを協議体に活用することも検討している。 ○ 協議体の開会中より終わった後の方が話が活発になる。 ○ 第1層メンバーは役職付きの方が多く，ワイワイ・ガヤガヤにならない。 ○ 多賀城市…メンバーは地域の役員をあえて外している。ワイワイ・ガヤガヤからその後どうするということにつながらない。 ○ 協議体のテーマを絞り過ぎると行き詰る。何気ないざっくばらんな会話ができるようなメンバーを集めてみるのもいいのではないか。形態やメンバーは色々な形があって良いのではないか。 ○ 協議体の内容，進行について悩んでいる。 ○ 町内会単位（第3層）の方がより具体的な動きにつながりやすい。 ○ メンバーや住民に協議体について理解をしてもらうために，紙芝居等で分かりやすく説明した。 ○ 40～50歳代の若い世代の方にも参画してもらっている。 ○ 塩竈市…第2層協議体参加者は固定。女性のおしゃべり好きな方が多い。 ○ 協議体で何をテーマに話し合えば良いのか。どうしても行政への苦情や課題が多くなってしまう。 <p>テーマ：生活支援 Co の役割，運営，活動状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 専任・兼任のそれぞれメリット・デメリットはある。兼任は大変だが，兼任だからこそ，つながり易く地域に入り易い。 ○ 生活支援 Co 同士の勉強会や連絡会を開催しており，悩み等相談し合っている。 ○ 地域のイベント・集まり等にとにかく参加している。3年目となると地域の方とだいぶ顔なじみになり信頼関係が出来て来ることを実感している。 ○ サロン等に参加し情報収集や協力してもらえそうな人を探している。 ○ 包括業務との兼務の場合，業務分担の工夫が必要と感じている。 ○ 生活支援 Co が一人で地域を見るのは困難。他の職種と協力していくことが大切ではないか。 ○ 包括の中に配置された生活支援 Co は，今までの包括の個別支援の業務と違い，ギャップがあり戸惑いがあった。例えば地区の運動会へ参加する場合，生活支援 Co としての役割と，包括の役割として参加するのと違いがあり，包括の業務に沿った活動に近いところの的を絞り参加している。 ○ 個別支援に追われている生活支援 Co もいるが，個別支援を進めていく中で地域

も見えてくる。

- 社協内でチームを組み動いている。2年目になると色々とリンクしていることが見えてきて芽づる式が分かってきた。
- やることが多過ぎる。地域の困りごとや認知症の方をどう支えて行けば良いか。手を広げ過ぎていっぱいになってしまう。

テーマ：関係機関，団体との連携，情報共有について

- 地区社協や NPO 法人とのやり取りが進んでいる。買物マップづくりを契機に事業所との連携が進んでいる。
- 地域との信頼関係を築くには、社協をどんどん巻き込んでいくと良い。社協との連携が必要。
- 地域の方との信頼関係が出来てくると、役員さん方の特徴も分かってくる。個別ケースの相談等からつながっていけると良いのではないかな。
- 泉区では生活支援 Co 定例会を開催しており、行政や社協も参加し情報共有を行っている。
- 包括と社協それぞれが持っている情報を共有することで、より良い地域支援ができる。社協からノウハウを学ぶことも多い。
- 民生委員から相談されることが多いが、区の保健師と一緒に取り組んでいけたらいいと思う。寄り添ってほしい。
- 地域の要となる人のところへ根気強く通いつながった。
- 認知症ケアパス作りを通じて関係機関とのつながりができた。
- 包括の職員全員が、町内会のサロン等に参加するようにし、情報収集を行っている。
- 地域差はあるが、地区社協の集まりを協議体として活かせるのではないかな。
- 地域ケア会議での関係づくりができていいる他、銀行や郵便局、薬剤師、接骨院等とのつながりができた。今後、子育て支援の関係やまちづくり推進課等との連携、関係づくりが重要。

テーマ：組織内部の連携，体制づくりについて

- この事業について、組織内の共通理解・共有ができていないことがよく分かり、組織内部で研修会を行った。
- 生活支援 Co や協議体の役割等について組織内部の共通理解が必要。
- 担当課と生活支援 Co と定期的に顔を合わせる機会を持っている。
- 縦割りで動きづらいことがある。

テーマ：地域の宝物探しについて

- 名取市…約 25 年前から「家督の会」と称した長男の集まりがある。掃除・運動会のテント組立等。台風の前日に会員へ連絡し土嚢積みの対策をした。
- 塩竈市…地区のサロン、メンバーの一人暮らしの方で、ゴミ捨てが困難な方の家で、鍵が開いていればノートにゴミ捨てしたことを記入し交換日記になっている。その方の自宅をサロンとしていることもあり。
- 地域のキーパーソンを見つけることが大切。包括ではキーパーソンからの相談が多い。

<p>アドバイザー よりコメント</p>	<p><高橋副委員長></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 今まで活動している方（地域に関心の高い方）が地域を知る為には、特に地域に詳しい方とつながってけるといい。役付の方ではない方との広がりや芋づる式の広がりができると地域への関わりが深まっていく。今はその途上。この事業は計画通り進めていくのは難しく、違うアプローチや工夫が求められるため、周りの理解が必要。 ○ 昭和村では、協議体の中で認知症ケアパスについて話し合い、離れて暮らす子供達や家族に伝えられるようなものを作ってほしいとのニーズがあった。そのように協議体ではざっくりばらんな意見・話も出来る活用の仕方もある。 ○ 団塊の世代の方が住んでいる団地では、色々な活動が始まっているという話を聞く。そのようなところに目を向けると色々な発見があると改めて感じた。 ○ この事業は、やれば壁にぶつかる事業だと思った方がいい。自分だけで抱え込まず、このような場を通じて次のアイデアを出していければいい。 <p><折腹委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 協議体の作り方やメンバー等は地域に応じて進めて良い。協議体は「抗議体」にならないように、ワイワイ・ガヤガヤ話し合える環境づくりが大切。 ○ 認知症ケアパス作りについては、圏域ごとの特徴を活かしながら、認知症だけではなく地域で暮らし易さを追求するようなケアパスであってほしい。 ○ 地域に住む一人ひとりが満足、納得して暮らせるために、私達の役割と組織を作っていく等のプロセスが大切。年を取った時にここにに関わり良かったと思える地域になってほしい。 ○ 生活支援 Co が配置されてから日が浅く浸透していない。今は十分に種をまく時期。 地域へ出向き役割を伝え、理解者を増やし共感してもらえる人を一人でも多く作りながら、自分の活動を他の地域へ代弁してもらえる協力者を増やしていくと広がると思う。役割や目指すところがしっかりと伝わっていく時期がいずれは来る。そのイメージをしながら業務を進めていくと良い。 <p><高橋委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 協議体が十分に機能していることが、生活支援 Co を孤立させないことにもつながってくる。協議体は第1層、2層、3層の重層的なネットワークづくりが大切。 ○ これから協議体を立ち上げるころは、既存の組織を活用すると良い。社協は地域づくりの要となる方で構成されている団体であり、市、区、地区の社協を充分活用してほしい。地区社協の実働者は福祉委員であり、地域の暮らしの実態を良く理解している支援者の一人。第3層の地域ニーズの入口である福祉委員とパイプがつながると、第2層のところで連携が上手くいくのではないか。地域の実態に合わせた協議体づくりが大切であり、社協や民生委員、町内会長等との連携を是非深めていただきたい。 <p><小野委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 生活支援 Co への期待が高まる中、所属先の組織として、Co の活動をどう支えていくかということを中心に考えていく必要がある。Co の活躍ぶりを組織内部に浸透させていくことの重要性を改めて感じた。 ○ 芋づる式の宝物探しがヒントになると思う。一人の個別支援のケースを支える地域住民のところや、サロンの参加者へ声を掛け、信頼やネットワークづくりができていくことをイメージできた。
--------------------------	--

圏域・会場	県北部 宮城県登米合同庁舎 501会議室
開催日時	平成29年11月9日(木) 10:00~12:00, 13:30~15:30
出席市町村 (出席者数)	石巻市(11), 気仙沼市(13), 登米市(10), 栗原市(7), 東松島市(4), 大崎市(13), 色麻町(2), 加美町(2), 涌谷町(5), 美里町(4), 女川町(6), 南三陸町(2) 合計 79名
アドバイザー (運営委員)	東北福祉大学 教授 高橋 誠一 氏 仙台白百合女子大学 准教授 志水 田鶴子 氏 宮城県サポートセンター支援事務所 所長 鈴木 守幸 氏 宮城県社会福祉協議会 震災復興・地域福祉部 次長 西塚 国彦 氏
主な意見・確認 したこと等	<p>テーマ：協議体の役割，運営，活動状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地域の中には既に様々な会議があり，改めて協議の場が作られることは住民への負担になる。既存の会議を活用することも必要ではないか。 ○ ゴミ問題や移動の問題等，地域では様々な課題が出ており，住民主体で話し合えるような協議体にしたい。 ○ 協議体では，どうしてもサービス作りの話題になってしまい，お金のことや要望の話になりどのように進めて行けば良いか。 ○ 協議体のメンバーについて，協同組合や郵便局，商工会等色々な方が参画している。 ○ 協議体は住民のための協議体であり，押し付けではなく地域が主体としての話し合いの場にならなければ意味がない。 ○ 協議体のメンバーの中に役付きの方が集まると，ワイワイ・ガヤガヤにならず，自由に話ができない。役付きの方ばかりではなく，実際に活動している方々に参加してもらうこともいいのではないか。 ○ 協議体でワイワイ・ガヤガヤ話をした後，地域で支え合い活動につなげるにはどうすれば良いか。 ○ 協議体とは言わず，地区の懇談会を重ねていき，その中でじっくり話し合いを持つことで第2層へつなげるのもいいのではないか。 ○ 今できていることをお互い尊重し合い，自分達の地域を愛し，楽しい雰囲気の中で話し合いができるよう，生活支援 Co と関係者が連携し進めていくことが大切ではないか。 <p>テーマ：生活支援 Co の役割，運営，活動状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 積極的に地域へ出向き地域の方々との関係性づくりに努めるのが生活支援 Co の役割の一つであり，地域の方々との信頼関係を築いていくことから始まるのではないか。 ○ すぐに受け入れてもらったり教えてもらえるわけではなく，関係性づくりや自分の立場を理解してもらうところが時間が掛かり大変なところ。 ○ サロン活動が活発だが，それを住民主体で運営していく方法を考える必要があるのではないか。 ○ 課題解決のために地域へ働きかけることも生活支援 Co の役割ではないか。 ○ 登米市…第1層生活支援 Co は，第2層で出てきた課題の整理や広報等マネジメントの役割を担っている。 ○ 石巻市…今までの地域福祉 Co の業務が，生活支援 Co の業務に活かされている。 ○ 地域づくりの重要性や今行われている活動の意義，意味付けをし，丁寧に言語化して伝えていくことが大切であり，生活支援 Co の役割でもある。 ○ 大崎市…池月地区では，生活支援 Co がサロン等へ参加した際，猿が出没し危

ないという情報を得ると、注意喚起のチラシを作り、民生委員の会議や区長会議等で配布し、訪問する際の切っ掛けにしてもらうことをした。

- 高齢者の方々が、コンビニのイトインコーナーで毎日ご飯を食べ話をしていたり、寝たきりで動けない方のところを訪ねていることも宝物である。生活支援 Co の役割として、いかに何気ない日常生活の中にある宝物を見つけていけるかが大事ではないか。
- 生活支援 Co が活動しやすくなるよう、周囲の職員や仲間が Co の役割や活動を共有し一緒に進んで行かなければならない。

テーマ：関係機関、団体との連携、情報共有について

- 生活支援 Co と行政・関係者との情報共有が大事であり、そこから地域のつながりへ発展できるといいのではないか。
- 行政と関係機関との連携や調整が難しいが、基本は住民主体がベースであることを皆で確認した。
- 行政と社協（委託先）が同じビジョン・方向性で進めて行かなければ、本当の地域づくりはできない。
- 行政と委託先、関係機関、組織内部の壁を取り払うには、とにかく一緒に動いてやってみることで、少しずつ目指す方向がお互いに共通して見えて来るのではないか。
- 地域住民、行政、社協、包括等、それぞれの強みを活かし一緒に進めていければいい。

テーマ：組織内部の連携、体制づくりについて

- 生活支援 Co の役割について、組織内や関係機関に理解してもらえるような働きかけが重要。
- 気仙沼市…離島の大島の生活支援 Co として若い職員を配置しているが、市内の地域性の違い等もあり、組織としてどのようにバックアップしていくか、体制づくりが必要。
- 生活支援 Co の活動そのものを、組織内や関係機関に理解してもらうこと自体が困難。Co の役割を理解してもらう動きやバックアップについて、行政で認識が必要ではないか。
- 地域づくりに関連することを庁舎内の各部署で行っており、皆で協議できるといいと思っはいるものの、どこで取りまとめてやっていけるのかというところが、解決策として難しい。

テーマ：地域の活動・取組みについて

- 大崎市…池月地区では、地域の困りごとを話し合う場として池月地域づくり委員会が元々あり、事務局としてサポートセンターを立ち上げた。有償ボランティアの「池月お助け隊」での雪かき（30分 500円）や草刈り等をする高齢者のグループや、老人クラブがお寺と契約し、お墓の掃除（30分 500円）を30～40名で一気に行っている他、道の駅の草取りをすると500円券がもらえる等、様々な取組みがあり、高齢者が社会参加することで生き生きと暮らしている。

委員会で話されている困りごとや、生活支援 Co が地域に出向いて見つけた課題を委員会へフィードバックしたりお助け隊へつなげており、上手く循環している。元々ある地域の宝物を上手に活用し活性化させている。

<p>アドバイザー よりコメント</p>	<p><高橋副委員長></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 今やっていることは下地づくりであり、やればやるほど新たな発見がある事業である。 ○ 情報交換会では、事業の状況等だけでなく、住民の活動等が聞ける機会でもあり情報交換会でならではの話し合いがある。宮城県全体として、情報交換会やアドバイザー派遣、生活支援 Co 養成研修等が全てつながっており是非活用してほしい。 ○ 全国的に、他県と宮城県の状況とはかなり違いがある。宮城県だけができる事業ではなく、宮城県でできたことを他の所へ伝え発信できるといい。 <p><志水委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ この情報交換会のように、それぞれの歩みや地域特性を共有することも協議体であり、全て協議体の運営に役立つものである。是非、この場以外でもつながりを持ってほしい。 <p><鈴木委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 被災地支援での住民目線の支援が活かされ、これからの住民主体の支え合いの仕組みを作っていくことが大事。 ○ 地域住民が自主的に行っている活動を掘り起し、持続可能であり誰でも参加できるような形にしていくと、地域で孤立している方が顕在化し、そこに見守りネットワーク等がつながっていくということを意識しながら進めてほしい。 ○ 生活支援 Co はファシリテートが重要。住民の意思決定や実現のサポートも役割である。どのような視点で共有し協議体で考えてもらうか工夫すること。住民との関係性を増やしながら進めてほしい。 <p><西塚委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 改めてこの事業はサービス作りではない。専門職のサービス在りきの発想から脱却し、本人が望んでいることや周りの住民の支え合いで既にできていること等をアセスメントし、必要な支援を考えていくことが必要。 ○ 生活支援 Co は、ケアマネジャーと社協の地域福祉活動部門や小地域福祉活動に関わっているところの橋渡しをすることも重要な役割である。ケアマネジャーのケアプランの中に、インフォーマルな支援が組み入れられるようになれば更に良いものとなる。
--------------------------	---